

柏市地方創生推進交付金事業 評価シート					
番号	手賀沼地域「小さな拠点」創出事業				
担当部署	経済産業部 農政課	担当者	阿藤・音喜多	連絡先	771-469
目的	手賀沼アグリビジネスパーク事業の一環で行政が整備してきた「水辺の拠点」と「わしのかや農業交流拠点」について、「水辺の拠点」は手賀沼に魅力を感じる利用者及び事業者をターゲットとした、民間サービスに支えられた活性化の拠点として、また「わしのかや農業交流拠点」は、集落と農の活動に関わる都市住民等との連携により、地域課題の解決を目指す地域活動コミュニティの拠点として、それぞれが交流人口だけでなく、手賀沼利用者、都市住民、事業者、大学、市民団体等の中で、地域に継続的に関わる関係人口を取り込みながら、別の特色と役割を持つ「小さな拠点」としての発展を目的としている。				
経費概要	・委託料11,924,000円(手賀沼地域「小さな拠点」創出事業等推進委託)	交付事業に要する経費	11,000,000円		
		基準値		目標値	
(15) ページ	手賀沼・東部地域流動人口		70,100	84,000	
本事業における重要業績評価指標	指標		指標値	実績値	達成度(%)
	指標①	「小さな拠点」に新たに加わった経済効果	3,000千円	2,187千円	72.90%
	指標②	「小さな拠点」に新たに加わったサービスの利用者数	1,800人	646人	35.89%
	指標③	「小さな拠点」の関係団体数(事業開始前8団体)	20団体	17団体	85.00%
指標④	活用された耕作放棄地面積	30アール	26アール	86.67%	
事業効果(自己評価)	○				
	①地方創生に非常に効果的であった				
	②地方創生に相当程度効果があった				
	③地方創生に効果があった				
事業概要(進捗)	○				
	④地方創生に効果がなかった				
	【時系列で記入】 R3.4～:事業広報・PR(地域への情報発信としてチラシ配布, SNS活用) R3.4～:中間支援組織設計検討・関係者ヒアリング・地域PRイベントの開催(手賀沼まじづくりセンター開設12月, 手賀沼いちごスタンプラリー, てんこもどマルシェ, 各市民団体等の相談受付業務) R3.4～:水辺の拠点活性化会議(ヌマベ部会 月1回オンラインで開催) R3.4～:拠点活性化に向けたイベントの開催(生きもの観察会毎月第3日曜日開催, ゴミアートプロジェクト6月～7月, 手賀沼ひまわりクラブ7月, クリーンアップ大作戦7・11・3月手賀沼流域フォーラム10/23, テガヌマ・ウィークエンド「ヌマベケーション」10/30・10/31, 生きもの観察会9～3月計7回) R3.5～:体験プログラムの企画・運営支援(ハンブーディキャンプ, 手賀沼スクールヤード, 手賀沼みらいワインプロジェクト(作業体験)) R3.6～:わしのかや農業交流拠点活性化会議(計7回実施)				
成果	前年度までの道の駅しょうなんを中心とした事業の横展開として、新たに3か年の事業計画を策定し、行政で整備した「水辺の拠点」と「わしのかや農業交流拠点」をそれぞれ関係人口の増加による各拠点の活性化事業を実施した。また、手賀沼周辺における様々な市民団体や民間事業者等の活動支援や情報発信等を行う中間支援組織の構築に向けた検討を実施した。				
	「水辺の拠点」では拠点において、様々な活動を行っている市民団体が集まり組織された「ヌマベクラブ」のメンバーに参加していただき、毎月1回ヌマベ部会を主にオンラインで開催している。そこでは拠点の活用方法や使用上のルール、イベント内容の検討、勉強会等を実施し、市民団体等による主体的な拠点活用に向けた協議が行われている。イベントとしては毎月1回、拠点内に整備された池(ミライのち池と呼称)において、生き物観察会を実施している他、拠点周辺に捨てられていたゴミを使ったアート作品の作成や展示、10月には各団体から様々なプログラムを提供してもらい、テガヌマウィークエンド「ヌマベケーション」として、SUPやヌマベを使ったヨガ体験、ワークショップ等を実施した。これらの活動等を通じ、新たな関係団体の参加や、イベント収入等を得ることができている。				
	「わしのかや農業交流拠点」では周辺の耕作放棄地を活用した「手賀沼ワインプロジェクト」の支援を通して拠点活性化に繋げている。地元農業者やプロジェクトに賛同して集まったボランティアが集まりブドウ畑の整備や農作業を実施する中で、拠点の活用や関係人口の増加している他、作業自体を体験プログラム化し、外部人材の活用も検討している。現在はワインについては試験栽培の段階ではあるが、今後も農園の規模を拡大させるにあたり、耕作放棄地の解消面積も増えたとともに、地元産ワインとして発売を見越し、ワインプロジェクト自体が地域における活動として定着するよう、話し合いの場や理解を深めるイベント等の支援を行い、地元の方々の合意形成を図っていく。				
	その他、コロナ禍により県外への校外学習等が難しい状況となった中で、各拠点や手賀沼周辺の自然環境を活かし、身近な場所で実施できる体験教育プログラムとして「手賀沼スクールヤード」のプログラム造成支援(野菜の収穫・作業体験や釣り体験、カヌー、ネイチャービンゴ、竹林整備、歴史探検等)を行い、トライアルで実施した。これについては、協議会が自ら観光庁の補助金を申請・採択されており、本委託以外の財源も活用している。中間支援組織の構築に向けては、本事業の実施主体である「手賀沼アグリビジネスパーク事業推進協議会」の今後のあり方として、本課からの委託事業だけではなく、近隣市を含め、様々な主体と関わりを持ち手賀沼地域全体をトータルコーディネートするまちづくり組織として活動を継続していくことを軸に、法人化等に向けた協議を実施している。その為の前段階として道の駅しょうなんの総合受付を「手賀沼まじづくりセンター」として、情報発信だけではなく、地域の困りごとや様々な団体の活動の相談を受ける場所としての機能を持ち合わせる場所として運営を開始した。				
その他特記事項	・本事業の核拠点となる道の駅しょうなん再整備工事については完了し、令和3年12月16日に拡張オープンしている。また、既存施設についても令和4年4月にリニューアルオープンし、毎月10万人以上の方が来場しており、手賀沼地域全体の活性化の集客拠点として十分に機能している。				
	・新型コロナウイルスの影響により、アウトドア需要の増加やマイクロツーリズムといった身近な地域での需要が高まっていることもあり、水辺の拠点については、来場者数が着実に伸びている。(H30:22,060人⇒R1:27,183人⇒R2:27,711人⇒R3:36,431人)				
	・「手賀沼スクールヤード」が多様な主体と連携した地域課題の解決や地域活性化の取組として評価され、令和4年度に「ちばコラボ大賞(千葉県知事賞)」を受賞。また、農水省が主催する「ディスカバー農山漁村の宝アワード」において関東農政局の優良事例として選定された。				
	コロナ禍において遠方に行けない小中学校に向けて、自然体験プログラムを造成を行ったが、結果として身近な場所で自然体験ができることは学校側にとっても移動時間を短縮し、その分を体験時間に充てられ、子供たちにより充実した体験をさせられるというメリットがあることが分かった。そのため、コロナ禍がある程度落ち着いたとしても、マイクロツーリズムの需要は継続することを見越し、各拠点における関係人口を増加させ、様々なプログラム展開を図ることで、本地域の地方創生に繋げていきたい。				
柏市地方創生総合戦略評価委員会による評価					
	KPIIについて		意見		
	①総合戦略のKPII達成に有効であった				
	②総合戦略のKPII達成に有効とは言いえない				